パリ日本文化会館友の会 ハイライトニュース 2018 No.5
MCJP2018 ― No.5 作成日：Tuesday, July 17, 2018
作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr

いよいよ始まった「ジャポニスム 2018」

７月 12 日から 15 日にかけて日仏の共同大型文化事業「ジャポニスム 2018」のオープニング・イベントが一斉に開幕しました。これから 2019 年３月まで開催されるさまざまな「ジャポニスム 2018」の事業について本「ハイライトニュース」で逐一報告して行きたいと思います。

同じ日に複数の事業が五月雨式に別々の会場で始まりましたので、珠玉の事業の贅沢なはしご見学をしました。それらの様子を、少し長くなりますが、以下、時系列に従って速報いたします。

① 河瀬直美監督新作映画「ヴィジョン」プルミエ上映会

「ジャポニスム 2018」全体の公式開会式が行われる直前、７月 12 日の午後３時過ぎから河瀬直美監督の新作映画「ヴィジョン」のプルミエ上映会がパリ東方のベルシー地区にあるシネマテーク・フランセーズで開催された。西日本地区で発生した未曾有の水害への対応から急遽訪仏を取りやめた安倍首相に代わって河野外務大臣が参加され、冒頭の挨拶を述べられた。日本側からは木寺駐仏日本大使、安藤国際交流基金理事長、河瀬直美監督、一松奈良県副知事、北岡奈良県吉野町長らが出席、フランス側からは「ヴィジョン」に出演した女優のジュリエット・ビノシュさんやシネマテークのフレデリック・ボノー館長らが参加した。来場者は映画館側の招待客を含めて、総勢 300 人ほどを数えた。

次の開会式会場へ行かなければならず、映画上映の半ばで退席せざるを得なかったため、映画の内容までは深入りしないが、日本人の自然への畏敬と自然との関わりを描き、吉野の美しい山々と自然を堪能させる良い映画であると感じた。

11 月 23 日から始まるポンピドゥーセンターでの河瀬直美監督特集でも「ヴィジョン」が上映される予定である。

冒頭挨拶後記念撮影に応じる河野外務大臣

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。

作成者：館長 杉浦 勉 t.sugiura@mcjp.fr

奈良県一松副知事と北岡・吉野町長が参加した鏡割り

②「ジャポニスム 2018」公式開会式

「ヴィジョン」プルミエ上映会後の７月 12 日 18 時、パリ北東のパンタンにあるラ・ヴィレットという広大な文化施設のホールで「ジャポニスム 2018」の公式開会式が始まった。最初の 30 分間、河野外務大臣とマクロン大統領の代わりに出席されたニッセン文化大臣は、隣の大ホールで開催中のチームラボの「境界のない世界」展をチームラボ創設者・猪子寿之さんの解説を受けながら鑑賞され、続いて 10 分間ほど、ホール横の広大な芝生公園でサッカーに興じる日仏の子供たちと交流された。

18 時 40 分頃、お二人は舞台上に待機していた日仏の子供たちとともに、フランスが力を入れて推進している芸術鑑賞教育ツール「ミクロフォリー」というソフトを、iPad を使って一緒に操作された。予定では 10 分ほどであったが、実際には 15～20 分ぐらい費やされたように思う。

その後両大臣は壇上に立ち、次のような主旨の開会の辞を述べられた。

河野外務大臣は、マクロン大統領から寄せられた日本の水害被災者へのお見舞いの言葉に対する感謝の表明の後、「特筆すべきはフランスと日本の最初の橋渡しをしたのが文化であったということです。フランスと日本の国民の心と心が、絵の色彩で、詩の韻律で、結びつき、文化を通してお互いに高め合い、そして価値観を共有致しました。『自由・平等・博愛』はフランスとともに日本が世界に広めるべき価値観となっています。日本の近代の曙とともに出会った二つの魂が、響き合い、運命に導かれるように関係を深め、そして未来を一緒に切り拓こうとしております。その姿の一端に一人でも多くの方に触れていただき、日本文化の粋をご堪能いただくよう祈念致したい」と挨拶された。

ニッセン文化大臣は、大雨による水害で困難に直面している日本に対するフランスの連帯と被災者とその親族に哀悼の意を表した後、「フランスでは日本文化の魅力に対する愛情、情熱がはるか昔から存在する。想像性の出会いは、文学や演劇、映画、建築、デザイン、美食、マンガなど、あらゆる文化的側面において行われてきた。この文化イベントは両国に存在する歴史ある類まれな関係の証であり、友好の中核でもあり、２つの想像力の出会いの場でもある。ジャポニスム

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。

2018 のプログラムの多様性と豊富さがさらなる両国間の関係を深めることになろう。不安の時代において、文化は両国が果たす役割の中で重要な地位を占める。マクロン大統領は東京とパリのオリンピック・パラリンピックの間の年である 2021 年に『日本におけるフランスの文化イベント』を開催することを望んでいる。そこでも両国が出会えることを祈っている」という趣旨のことを述べられた。

通訳の時間を含めて合計 30 分強（予定では 20 分であった）の開会の辞が終わると、和太鼓グループ「ドラム TAO」が 5 分間ほどのダイナミックな演奏を披露して式典は終了し、その後中 2 階に用意されたカクテル会場に移動、河野大臣の乾杯の音頭のあと、招待客たちは和食に舌鼓を打ちながら歓談するものあり、チームラボ展を鑑賞に行くものあり、三々五々解散となった。

開会式の来場者数は、非公式ながら招待客約 300 名、ジャーナリスト約 20 名、関係者約 60 名の計約 380 名であった。

壇上で開会の挨拶を述べるに河野外務大臣とニッセン文化大臣

③ 名和晃平彫刻作品「Throne(玉座)」特別展示内覧会

公式開会式が終わると、河野外務大臣はジャポニスム関係者との夕食会に行かれた。開会式が行われている頃、ルーヴル美術館では名和晃平さんの彫刻作品「Throne(玉座)」特別展示内覧会が始まっていた。入り口のピラミッド内に設置されている高さ 10.4 メートル、重さ 3 トンの名和晃平さんの巨大モニュメント「Throne」の内覧会である。

実は、その前々日の 10 日火曜日、閉館日の夕方にプレス向けの初披露会があり、筆者はそこに参加したのだが、非常に良い天気に恵まれ、太陽も西の空にあったので、日光を受けて輝く黄金の玉座は見事であった。名和さんご自身も「思い描いた姿をはるかに凌駕する迫力だ」と取材した記者に答えていた、

ちなみに、日が暮れた夜間には、ピラミッドの底辺 4 カ所に設置された照明器具から玉座に向けて光が照射される。ピラミッド内に浮かび上がるそうした玉座もまた格別に美しく、必見である。

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。

作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr

その玉座がなぜ空位なのか、名和さんはこう説明する。「ルーヴルは当初から権力を象徴する場所であった。しかし、これからの時代はコンピュータや人工知能(AI)の発達により、本当に権力をもっているのは誰なのか定かでなくなるだろう。そうした時代の到来を暗示するために空位となっている。そこにある玉座の椅子は子供しか座れないような大きさになっているが、それは人工知能が子供のような小さなものだということを暗示している。」

ピラミッドの外観（左）とピラミッドの内部（右）から見た金の玉座

ジャーナリストの取材を受ける名和晃平さん

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。

作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr

④「井上有一　1916-1985―書の解放―」展内覧会

日が変わって７月 13 日、筆者の本拠地であるパリ日本文化会館で「井上有一」展の内覧会が 17 時半から行われた。

それに先立つ 13 時 50 分頃、河野外務大臣が昨年 12 月 13 日の「ジャポニスムの夜明け展」視察に続いて２度目の弊館視察に訪れた。正面より入館されると、すぐに待機していた 40 名ほどの弊館職員へ向かって次のような激励の言葉を述べられた。「お疲れさま。（ジャポニスム 2018 が）昨日無事開会をいたしまして、評判も非常に各地上々のようですので、本当にこれまでの皆さんのご尽力を有り難く思っております。これから２月まで、いろいろと大変なこともあると思いますが、是非頑張っていただいて、ジャポニスムを盛り立てて、成功に導いて頂きたいと思います。」その様子は NHK ニュースでも報道された。

（参照：https://www3.nhk.or.jp/news/html/20180714/k10011532861000.html）

その後、河野大臣は地上階に特設された「ジャポニスム 2018 情報センター」と NHK が特別に貸与してくれている「8K 超高画質モニター」、そして隣接する「おにぎりバー・国虎屋」などを視察しながら地上階をぐるりと一周され、フランス式２階（日本式３階）展示ホールに移動し、「井上有一」展を鑑賞された。

同展のキュレーターである秋元雄史東京芸術大学美術館長・教授による説明を受けながら、絵画的な井上有一の作品に質問を交えながら随所で率直な感想を述べられ、14 時 15 分頃弊館を後にされた。

弊館情報センターを視察する河野外務大臣

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。

作成者：館長 杉浦 勉 t.sugiura@mcjp.fr

国虎屋横に設置した8K モニター前で談笑する関係者

「井上有一」展を視察する河野外務大臣

ところで今年の高松宮殿下記念世界文化賞の絵画部門においては、ベルギー出身でフランス在住の芸術家ピエール・アレシンスキー氏が受賞した。7 月 11 日に木寺駐仏日本大使隣席のもと、ギメ美術館でその受賞記念式典が行われた。同氏の受賞を漏れ聞いていた筆者は「井上有一」展のカタログを式典に持参し、同氏に直接それを手渡すことができた。氏も同席していた奥様も懐かしそうに「おゝ、ユウイチ！」と喜びの表情をしたので、筆者は会期中是非展覧会を見に来て欲しいとお誘いした。同氏は森田子龍や篠田桃紅ら日本の前衛書家との交流があり、井上有一のこともよく知っていたのだ。

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。

受賞式でのアレシンスキー氏

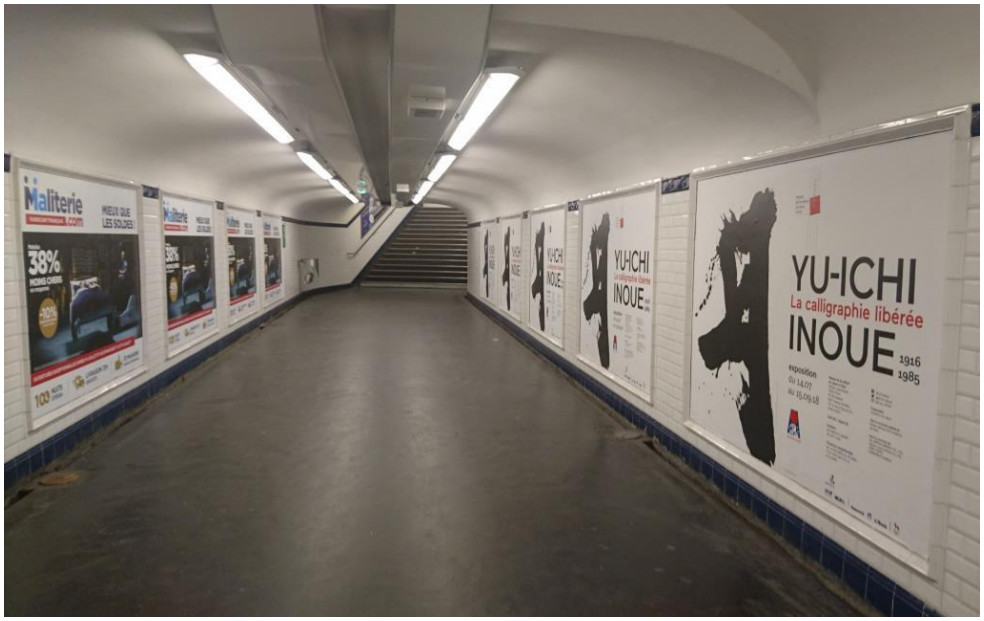
会館小ホールで開催した「井上有一」講演会

なお、7 月 12 日の午前中には弊館日本友の会会長であるトヨタ自動車(株)の早川副会長も弊館を来訪され、「井上有一」展を視察された。

日本人からは「孫が書くような字だけれど、最初に評価したのは誰だろう？」といった声が聞かれたが、弊館に勤めるフランス人が「素晴らしい展覧会だ。とてもいいものを見た。」と感想を述べるなど、井上有一の書画を見て、きれいな「字」の型を習った日本人とそれを習っていないフランス人との反応が異なることが面白い。

7 月 13 日の内覧会後、秋元氏による講演会が小ホール（128 席）で行われたが、ほぼ満席となり、井上有一あるいは書そのものに対するフランス人の関心の高さが垣間見られた。内覧会への来場者は約 150 名であった。

この展覧会は 7 月 14 日から 9 月 15 日まで一般公開される。現在、地下鉄主要駅にポスターが張り出されている。



地下鉄通路に張り出された「井上有一」展ポスター　コンコルド駅にて

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。

作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr

⑤「深みへ-日本の美意識を求めて」展内覧会

「深みへ-日本の美意識を求めて」展（以下「深みへ」展）は、「日本の美」総合プロジェクト懇談会の津川雅彦座長が構想し、日本を代表するキュレーターの一人である長谷川祐子さんがその構想を具体化した展覧会である。いわば「ジャポニスム 2018」全体のコンセプトを体現した展覧会といえよう。

本ハイライトニュース第１号で報告した「深みへ」展の講演会で長谷川さんの意図はご紹介したので、ここでは割愛するが、津川さんの当初の構想はこうであった。「１つの美意識をテーマに２つずつ、多数の異なるジャンルを展示することで、日本の美意識の奥深さを感じさせる。」というもの。日本の美意識として津川さんは「禅」（スティーヴ・ジョブズは「禅」に影響を受けて iPhone をつくった）や「かわいい」（ディズニーはロボットの「優しさ」で世界を救う「ベイマックス」という映画をつくった）などのほか、「間」「素」「幽玄」「妙」「異」「遊」などさまざまな項目を挙げていた。

それを長谷川さんは「1.序章-響き合うこだま」「2.生命の起源-アニミズムの解体と伝達」「3.錬金術-素材と知覚の変容」「4.消失の美学-ミニマリズム」「5.南方へ-周辺地域における創造の再活性化」「6.災害と危機の再表現-新たな存在をめざす媒体」「7.反復する再生-触れないものの再生」「8.主観的風景/軽みの哲学」「9.雑種形成-共存」「10.変容-終章」（以上仮訳）など 10 のテーマに区分けして縄文から現代までの作品を、時に田中一村とゴーギャン、円空とピカソ、柴田是真とアンヌ・ロール・サクリストなど日本と西欧の作品を対比させながら陳列している。当初意図された構想がどこまで再現されたか、されなかったか、興味深いところであるが、当初の難しい命題を、わかりやすく噛み砕いて形にした長谷川さんは流石である。

ここに展示会場の様子をいくつか写真でご紹介する。内覧会への来場者は約 450 名であった。

十日町市所蔵の縄文火焔土器（左）とデザイナー・アンリアレージの彫刻（右）

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。

作成者：館長 杉浦 勉 t.sugiura@mcjp.fr

円空とピカソの作品の対比

リー・ウーファンの作品のある部屋

田中一村とゴーギャンの作品

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。

作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr

地下の空間に展示された名和晃平の巨大な「泡」の作品

⑥「ドラム TAO」公演会

セーヴル市に近いパリ西方のセーヌ川の中州北端にあるスガン島（ルノー工場跡地）に船の形をした大きな文化施設がある。日本人の建築家・坂茂さんの設計したものだ。昨年春にオープンしたばかりである。同施設が建築中の頃からこの新施設で「ジャポニスム 2018」の開会式やさまざまな事業を実施すべく交渉してきたが、いろいろな紆余曲折を経て最終的にはこの「ドラム TAO」と秋の終わり頃に「初音ミク」の公演をここで行うことになった。

さて、「ジャポニスム 2018」の開会式をも飾った和太鼓グループ「ドラム TAO」の今回のメンバーは、グループの中でも選りすぐりの 25 人である。

７月１３日２０時半から公演は始まった。大中小の和太鼓や篠笛、琴など様々な楽器を効果的に使いながら、一日６時間は下らないというハードな訓練を積んだ若者たちが女性奏者３人を中心に、大きな舞台が狭く感じられるほど動き回る。衣装デザインはコシノジュンコさんである。

彼らは、跳び上がったり、低い姿勢になったり、息のあった動きで様々なフォーメーションを取りながら、侍の立ち回りのように力強く切れのよい動きで太鼓を叩く。時にユーモアを交えながら、観衆を飽きさせることなく、２ 時間の大迫力の舞台が続いた。演奏が終わると魅了された観客たちは全員スタンディングオベーションで彼らを讃えた。終演後のカクテルでは「見事なエンタテインメントだ」「日本の若者たちのこんなに元気な姿を見て感動した」「ぜひまたパリに来てほしい」など称賛の声がアーチストたちに直接伝えられた。

初演は会場となった全座席数 1150 席の「オーディトリアム」の 95%、サッカー「ワールドカップ」決勝戦が行われた 15 日２回目の公演は同 85%が埋まった。

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。

作成者：館長 杉浦 勉 t.sugiura@mcjp.fr

「ドラム TAO」パリ初演のフィナーレにスタンディングオベーションで応じる観客たち

終演後のカクテルで挨拶する国際交流基金・安藤理事長

⑦ 2.5 次元ミュージカル「刀剣乱舞」公演会

「刀剣乱舞」とは、名刀が戦士の姿になった“刀剣男子”を育成する超人気 PC ブラウザ・スマホアプリゲーム「刀剣乱舞-ONLINE-」（DMM GAMES/Nitroplus）を原案とした『刀剣乱舞』というシリーズ化されたミュージカルである。2015 年秋に初ミュージカル化された。

2017 年 1 月に中国の上海での海外初公演が大成功を収め、2 月のインドのニューデリーでの「インド・ゲーミングショー」や 7 月のフランスのパリで行われた「ジャパン・エクスポ 2017」でも一部上演されるなどした。

7 月 15 日（日）15 時からパリ北西部のポルト・マイヨにあるパレ・デ・コングレ・ド・パリで行われたヨーロッパ初公演となる「ミュージカル『刀剣乱舞』～阿津賀志山異聞～」は、2016 年に上演されたシリーズ第一作目。

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。

作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr

冒頭のプロデューサーと演出家の挨拶の中で、今回子狐丸役をしている北園涼さんがパリに来て網膜剥離と診断されたため、声だけの出演となるという発表があった。北園さん本人も舞台に立ち、舞台に立てない悔しさとすまなさで声を詰まらせながらお詫びの挨拶をすると、会場からは同情の拍手が送られ、涙を流すファンもいた。

新選組による池田屋襲撃事件を思わせる階段状の舞台を使って、鎌倉時代初期に刀剣男子たちがタイムスリップし、ゆがめられた歴史をあるべき姿に戻すというストーリーである。舞台いっぱいに作られたこの階段状舞台は滑るように真ん中から左右に分かれる仕組みになっていて、そこで刀剣男子たちによる歌とセリフ、リズム感とスピード感のある剣舞のような立ち回りが連続的に繰り広げられる。背景には月や森などの映像が効果的に使われている。

公演は、1 部は 2 時間ほどのミュージカル、2 部は 1 時間ほどの歌と踊りの 2 部構成になっている。今回のパリ公演は JTB による観劇オフィシャルツアーのチケット販売がローソンチケットを通じて日本でも発売されたため（写真参照）、日本から来たファンも多く見受けられたが、2 部ではそのファンたちがペンライトを両手に持って左右前後に揺らしながら応援していた。

本公演準備・実施をフォローしたフランス人のジャーナリストは、今回の公演準備には舞台づくりも含めて日仏半々の計 200 人の人々が関わり、その過程でいろいろ困難もあったが、それを乗り越えて実施にこぎつけたということで、本当の意味で日仏合作、日仏交流が行われたという。彼はその点を高く評価していた。

13 日夕と 15 日昼の公演は各 1800 席を売り出したそうだが、13 日には 1500 席は埋まっていたように見受けられた。正確な数字がでたらまた報告したい。

なお、このパレ・デ・コングレ・ド・パリでは 11 月 3～4 日に 2.5 次元ミュージカル「美少女戦士・セーラー・ムーン」の公演も行われる予定である。

日本でパリ公演を募集したチラシ

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。

作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr

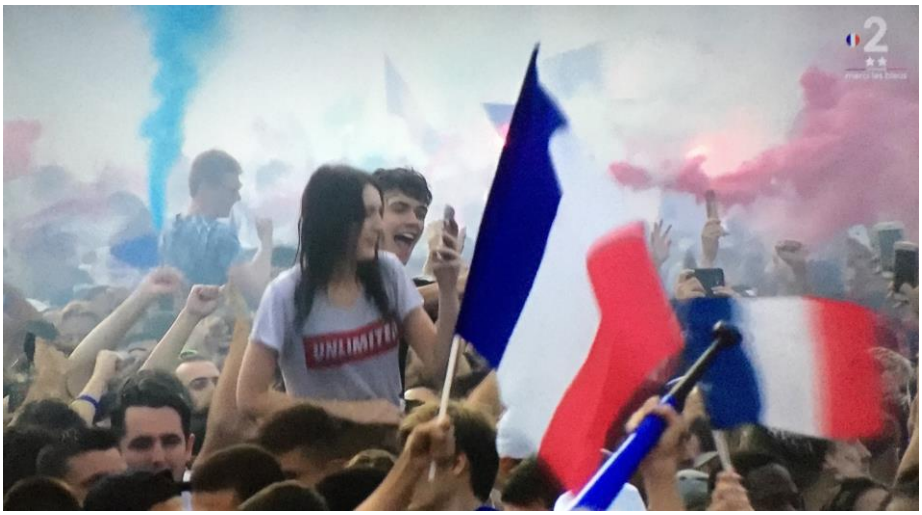
⑧ 付録：サッカー「ワールドカップ」フランス優勝！

余談になるが、15 日、「刀剣乱舞」の公演を見てから地下鉄一番線に乗って帰途につき、コンコルドまで来たところで、12 番線に乗り換えようとしたら、駅構内から全乗客が強制的に外に出された。19 時近くになっていたと思う。地上にでると、フランス国旗を持ったり、クラクションを鳴らしたり、大声で歓喜の声を上げる人々や車があちこちに溢れ返っていた。結局家まで歩いて帰ったのだが、パリの街は大変な騒ぎとなっていた。モスクワで開催されているサッカー「ワールドカップ」でフランスがクロアチアに 4 対 2 で勝利し、優勝したのだ。

実は、1998 年にパリで行われた「ワールドカップ」でフランスが優勝した時も、筆者はパリに駐在していたのであるが、20 年後に再びフランス優勝の瞬間に居合わせることになった。

フランス国民の喜びようは 20 年前を想起させるもので、その興奮をお伝えするべく、街で撮った写真や 15 日夜のテレビで報道された歓喜する人々の写真を掲載させていただくことにする。

サンジェルマン大通りを旗を掲げ、クラクションを鳴らして車を乗り回すファンたち



サッカー・ワールドカップ 2018 優勝を喜ぶフランスの国民（シャンゼリゼ通り）　　7 月 15 日 F2 ニュースより

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。